

【第3回 学校運営協議会】

令和4年2月14日実施

1 開 会

2 報告・連絡事項

(1) 中学校の現状について

- ・新型コロナウイルス（オミクロン株）感染防止への学校対応

(2) 「プロから学ぶ創造力育成事業」について

(3) 「伝統文化の学びの充実事業」について

3 意見交換・協議事項

(1) 学校評価について

- ・生徒、保護者アンケート結果より
- ・教師による学校評価より

(2) 令和4年度学校経営方針について

(3) 部活動（吹奏楽部）について

(4) 学校運営協議会の取組と来年度に向けて

(5) その他

- ・今後の予定

3月 9日（水）令和3年度卒業証書授与式

3月11日（金）公立高校一般学力検査

3月24日（木）修了式

4 質疑応答（学校運営に関すること）

NO	意見及び質問事項 等	改善・対応策 等
1	・現3年生の進路状況報告を受けて、但馬外の公立高校への進学者が多いように感じる。但馬にない魅力が他の高校にあるのだろうか。	・複数志願選抜制度の導入により、行きたい学校が受験できるようになり、幅広い選択肢の中から受験校を選択する生徒が増えている。地元の学校を守る上でも、ふるさと教育を充実させ、ふるさと生野への愛着や誇りを育ませることで、将来、生野の地で生活したいと思える人づくりに継続して取り組む。
2	・学校管理をする上で、外来者（業者等）が職員室に入室している時の情報の漏洩が危惧され、危機管理は大丈夫でしょうか。	・来校者には、玄関にて来校者ホルダーの着用を義務づけ職員室への入室を認めている。その反面、業者等の入室が常習化しつつある中で、職員の危機意識も薄れてきているのも事実である。職員会議や職朝等で機会がある毎に、職員室での会話等の啓発活動に努めていく。
3	・学校評価する上で、委員としてはアンケート結果（生徒・保護者・職員）を元に判断せざるえない状況にある。文書から見た評価になってしまうが、それでいいものだろうか。	・子どもたちや教職員の日常生活に触れる機会がないのが現状である。そこで、学校開放として会議部屋を開放し、いつでも学校訪問が可能な開かれた学校づくりを目指す。委員の方については、熟議を学校の教室を使っただき、普段の様子を参観できる環境づくりに努める。
4	・先生方の事務量の多いことが推測される。その中で、全ての項目に対して評価を上げるには限界があると感じる。次年度の取り組みとして、項目を絞って評価目標を設定し取り組んでみたらどうだろうか。	・年度当初において、本年度の重点項目を設定し、職員が共通理解のもと創意工夫を凝らしながら実践するように試みる。また、職員個人の目標設定表を作成し、日々意識しながら取り組めるようにする。

5	<p>・学校だよりやホームページ等の情報発信ができており、学校の様子がよく分かる。また、インクルーシブ教育も領域が広いが、前向きに取り組んでいることは高評価である。</p>	<p>・引き続き積極的な情報発信を心がける。また、子どもたちの実態を丁寧に把握することを意識させる。また、一人一人の子どもたちの背景を見据えた対応、寄り添う姿勢を大切にしながら生徒を向き合う教師集団づくりに努める。</p>
6	<p>・小規模校での部活動の運営に苦慮していることはよく分かる。その中でも、子どもたちの選択肢が減るのではなく、臨時あるいは新入生の動向をみて、新設するような対応はできないものだろうか。</p>	<p>・現在、特設の陸上部を設置している。今後、部活動が地域移行への方針がでてい中で、部を新設することは現実には非常に難しいです。また、他校では部活動指導員を任用しているところもある。できるだけ、個の希望も傾聴しつつ選択肢が減らないように努める。</p>
7	<p>・次年度、学校運営協議会をより効果的な運用するには、どのような取り組みが考えられるだろうか。</p>	<p>・年度当初に、各チームで部会毎に年間計画を作成し、実践していく。(①まごころ教育・②学力向上・学習支援・③環境・安全)</p> <p>・地域住民に部活動や学習支援等の活動への協力員を募集してみる。</p> <p>・学校から各委員に対して、生徒の活動を紹介するとともに参加への要請を図る。</p>

5 閉 会